



平成21年企画展 福井城跡発掘展

福井城下の唐津

●会場 企画展示室
 ●会期 平成21年5月21日(木)～7月20日(海の日)
 休館日:6月15日(月)・16日(火)、7月6日(月)・7日(火)

近世初期に突如現れたやきもの「唐津焼」。朝鮮から渡来した陶工たちによって肥前国(現在の佐賀県)で始められたこのやきものは、新しい窯業技術を基盤にして、また茶の湯の流行を反映した作品を作ることによって販路を拡大し、西日本や日本海側を中心に広く流通しました。これらの地域の城下町遺跡からは、唐津焼が大量に出土しており、当時の消費生活に唐津焼が大きな役割を果たしていた事を証明しています。

今回の展示では、福井城跡の発掘でも必ず見つかる「唐津焼」を中心に採り上げながら、唐津焼と福井城との関係、そしてその歴史を見ていきたいと思ひます。

唐津焼のふるさと

現在の地図で「唐津」という地名を探すと、九州の佐賀県に唐津市を見つけることができます。唐津は唐津湾を擁する港町として古くから栄え、また近世以降は唐津城を中心とした城下町としても発展しました。しかし「唐津焼」はこの港町で生産されたものではありません。実は「唐津焼」は、唐津湾に注ぐ松浦川の上流地域、岸岳地域、伊万里地域、有田地域、武雄地域などで生産されたものなのです。ではなぜ「唐津焼」と呼ばれるようになったのか? 唐津港から出荷されたために「唐津焼」と呼ばれるようになった、というのが一応の説ですが、まだはっきりとはわかっていません。ちなみに「伊万里焼」も伊万里地域ではなく有田地域で生産したものを伊万里港から出荷した為に「伊万里焼」と呼ばれるようになったとされています。



江戸時代の
 主な陶磁器の
 生産地と消費地

唐津焼の代名詞 絵唐津の世界

「唐津」といえば、灰色や黄褐色のうつわに草木の文様をのびのびと描く「絵唐津」がまず思い起こされるのではないのでしょうか。あの大胆な絵柄が、多くの陶芸ファンを魅了します。ところでうつわのデザインをよく眺めてみれば、伝統的な日本の窯業地「瀬戸美濃」と、大胆な絵柄やモチーフなどが共通している事に気づきます。そこには「唐津焼」と、最大のライバル「瀬戸美濃焼」との熱き戦いをみることができます。類似したデザインが2つの産地でほぼ同時期にみられる背景には、ライバル窯業地や市場の動向を瞬時に察知する情報力、その情報をいち早く製品に反映できる資本力・生産力などがあり、現代と同じ産業構造が、すでに400年前の日本に存在していたことを強く感じさせます。



絵唐津六角皿

コピー商品の登場 京焼風と高麗写し

「唐津」といえば、暗褐色の胎土に、細部にこだわらない大味な造形が特色ですが、唐津焼とは全く毛並みの違う一群もあります。胎土は白く、器壁は薄く端正で、上品な作り。まるで京焼のようです。そう、実は京焼をねらった「メイドイン肥前」なのです。

一方、江戸時代のファッションリーダー「茶の湯」世界では、朝鮮半島産のやきもの「高麗茶碗」がもてはやされましたが、流行に敏感な唐津では高麗写しの茶碗もつくられました。熊川・金海・呉器など色々なかたちがありますが、高台が高く端正な呉器手碗が多くみられます。大振りですら丁寧な作行きのものとは一般的な大きさの並製品に分かれます。この並品の呉器手碗は17世紀後半の福井城、「寛文の大火」(1669年)前後の遺構から必ず出土することから、城下のどこの食卓でも当たり前に使われていた「一家に一つ」のヒット商品であったと思われます。



京焼風碗



呉器手碗

新たな流行 刷毛目と二彩

従来あまり評価されて来なかった唐津の仲間に「刷毛目」「二彩」と呼ばれる唐津焼の一群があります。福井城下をはじめ、17世紀以降の各地の遺跡で出土しています。

当初は黒っぽい土を白磁に見せるために白土を塗っていたものを、コスト削減のために刷毛跡や塗り残しも気にせず粗相なまま製品としたものが、逆に「景色」(見どころ)として賞翫されたことから、この白土刷毛跡を新しい模様としてデザイン化していきました(刷毛目唐津)。さらに刷毛目装飾の上に緑や茶色の釉を垂らしかけたり、絵を描く等の装飾を施したもの(二彩唐津)や、ハンコ・線刻で紋様を窪ませ、凹部に白土を埋め込む象嵌技法のもの(三島唐津)もほぼ同時期にみられます。



刷毛目碗



二彩大平鉢

◎見どころ講座

「福井城跡の唐津焼」

日時 5月31日(日)午後2時～

場所 郷土歴史博物館2階講堂

講師 河村健史(福井県教育庁埋蔵文化財調査センター)

定員 60名(当日先着順、聴講無料)

【次回の展示】

企画展

橋本左内と安政の大獄

平成21年8月14日(金)

～10月12日(体育の日)

「展示解説シート No.41」

平成21年5月21日発行

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1

電話(0776)21-0489 FAX(0776)21-1489

担当:藤川 明宏